



今を生きる

かわかみ あつし
川上 篤 主事

安全対策課所属
7月19日から30日までの
12日間、宮城県東松島市で罹
災証明発行などの事務に関わ
る

今回、東松島市への派遣で、私は罹災・被災証明記入指導と土のう袋配布業務に従事しました。さまざまな人と話をする機会があり、とても良い経験になりました。市職員の話の中で、「津波の被害を受けてから、明日自分や周りの人がどうなるかなんて本当に分からないと思うようになった。だから自分は、今この一瞬を大切に、精一杯生きようと思う」と言われ、その言葉がとても力強く、印象に残りました。被災地の状況も徐々に忘れ去れがちですが、今も被災に負けず、精一杯生きようとしている人たちがいるということを、皆さんも忘れないでほしいと思います。

支援活動を終えて

いのもと たかふみ
井本 貴史 参事

環境課所属
6月4日から6月15日までの
12日間、宮城県東松島市
で被災者生活再建支援制度の
申請受付業務に関わる

私が関わった活動は、被災者が生活を再建するための見舞金の申請受け付けと相談業務でした。来庁者の多くが大震災により家族、親族、友人を亡くされた人や住居を無くされた人たちでした。一見元気そうに見えますが、心に傷を負っておられ、また日々の生活で心細い思いもしているように感じました。今回の支援活動、被災地の視察や市民との触れ合いなどを通して、今後の行政のあり方や、災害対策を考える上で必要となる数多くの大切なことを学ぶことができました。また、普通に生活できることがどれだけ恵まれたことなのか、新たな価値観で考えるきっかけともなりました。



人と人との つながりの大切さ

もり せいしろう
森 誠一郎 参事

総務課所属
5月1日から7日までの7日
間、宮城県東松島市で被災者
生活再建支援制度の申請受付
業務に関わる

5月初めに災害派遣に行き、被災者の生活再建支援という制度の申請受け付けをサポートしました。そこで申請に来られる人から、少しですがこの大震災について話を聞くことができました。想像もつかない津波の恐ろしさ、それによって目の前で大切な人を失う悲しさ、大震災時の夜、みんなで励まし合って乗り越えた勇気。それらを聞いて「人と人とのつながり」がとても大切であると思いました。
今回の大震災が与えた影響は計り知れず、早期復興も決して簡単なものではないですが、自分にできる事を考え今後も応援できればと思います。

被災地の1日も早い 復旧を祈ります

はらぐち あ き
原口 亜紀 参事

旭志総合支所民生課所属
5月8日から15日までの8
日間、宮城県本吉郡南三陸町
で被災者の健康相談や健康調
査などを行う

私は保健チームの一員として、被災者の健康調査を行いました。調査の中で、被災者から生活の不自由さや今後の不安など多くの訴えがありました。また、家族を亡くしたことや、近所の人たちがずぶ濡れになって逃げていく時の様子など、つらい話を聞くことも度々ありました。水道が復旧していないため、川での洗濯、入浴も週2回がやっとという状況でした。「温かい食事が食べられること」「トイレの水が流れること」など、日頃当たり前のように感じていたことが、とてもありがたいことであつたと感じました。被災地に1日も早く日常が戻ることを祈っています。

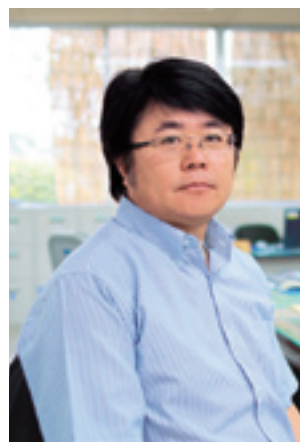


大震災発生から5カ月以上が過ぎたが、いまだに多くの被災者が不自由な生活を余儀なくされている。少しずつ復興は進んでいるものの、被災者の日常を取り戻すまでの道のりは遠い。自衛隊やボランティアの皆さんが全国から集結し、懸命に支援活動を行っているが、その数も徐々に減りつつある。また報道の数も減り、被災地の情報が私たちの元に入ってくる回数も少なくなった。しかし、被災地の人々にも私たちと同じように時間は流れ、1日1日を力強く懸命に生きている。
復興はまだ始まったばかり。震災前の日常を取り戻すためには、かなりの年月を要するだろう。継続的な支援がなければ、復興はさらに遅れることになる。さらに、被災地の皆さんが一番怖いのは、自分たちの存在が忘れ去られてしまふことではないだろうか。物やお金など支援の形はさまざまであるが、つらいときや苦しいときに一番の支えとなるのは、人と人とのつながりである。
私たちは、同じ国で起きているこの現状を、決して忘れてはならない。そして、被災地の皆さんに1日も早く日常を取り戻せる日が来るよう、支援を続けていかなければならない。

被災地の早期復興のために



①復旧に必要な情報を収集し、パソコンへ入力／②スコップと土のう袋で、流入した土砂の撤去作業／③全国から届けられた応援メッセージが避難場所に掲示されていた



早期の復興と 継続的な支援を

うえだ としお
上田 敏雄 係長

旭志総合支所民生課所属
5月26日から6月6日までの
12日間、宮城県東松島市
で主に市民課窓口業務に関わ
る

私が主に活動した市民課窓口は、震災直後に停電し、復旧したのは3月末～4月とのことでした。その間も被災地の職員の皆さんは、災害支援などで昼夜を問わず対応され、つい最近まで休みもなかったとのこと。それに関わらず、職員の皆さんは疲れた様子も見せずに職務に当たっておられました。このような中、被災地の皆さんと一緒に業務を行い、震災時の体験や教訓などを伺うことができ、貴重な経験をさせていただくことに感謝しています。今後は、この経験を生かせるよう努めるとともに、被災地の1日も早い復興と継続的な支援が続くことを願っています。

広報の必要性を 再確認

たにみず ひろゆき
谷水 宏行 技師

都市整備課所属
5月21日から27日までの7
日間、宮城県東松島市で住宅
の応急修理制度の申請受付業
務に関わる



東松島市役所での業務中、ある制度について尋ねられた際に、担当の制度以外を把握していなかったため答えられませんでした。東松島市職員から、「広報にすべて載っているから見てください」と言われ、いただいた広報を見たところ、受け付け中の制度がすべて記載してあっただけでなく、今後受け付けが終了する制度も記載しており、すべての制度を把握するのに大変助かりました。被災時でも自宅や避難所にしっかり届けられる広報は復興支援には欠かせないものだったと思います。広報にはさまざまな情報が掲載されていますので、何かあったときだけでなく、普段から広報をしっかり読む習慣の大切さを感じました。